「これでいいのだ～」～仏さまのまなざし

●効率性や合理性を学ぶ

二十一世紀初頭、投資をめぐり、
「お金儲けをしてなにが悪いんですか」
という発言が、その部分だけ取り上げられ、いっとき、話題になりました。
「法律を犯してないからいけない事はないのかな」
と思いながらも、私の心に違和感を覚えました。
それは、自分さえ良ければいいという姿は人ごとでなく、実は私の中にも同じような自己中心性があるのではと教えられるような居心地の悪さを感じたからです。

●バカボンのパパ

知り合いが新しいお寺の卵のような活動を始め、その寺報に天才バカボンのパパの話をしています。
最近、私たちの身の回りには、そのパパの言うセリフ、
「これで、いいのだ」
という雰囲気がなくなり、こうしなさい、こうしなければ駄目という風潮が多いのではないかというのです。

そのお坊さんが、

「お兄ちゃんと弟が家を学校に向かって8時に出ました。
お兄ちゃんは、毎分100メートルの速さで歩いたので、学校が始まる4分前に到着しました。（ついてゆけますか　笑）。
弟は、毎分70メートルの速さで歩いたので、学校が始まる時刻より5分遅れて到着しました。
さて学校は何時何分に始まるのでしょうか」

という小学生の算数の問題を目にしたとき、バカボンのパパが、小学生のバカボンから同じような質問をされたらどう答えるかと想像を働かせました。

きっとパパは言うでしょう。
「兄弟一緒に家を出たのに、なぜ弟だけ遅刻をしたのだ～、おかしいのだ～。
兄弟一緒に家を出たら同じ時刻に学校に着くはずなのだ」
バカボンは言います、
「パパ、それは、お兄ちゃんと弟の歩く早さが違うからだよ」
「それなら答えは簡単なのだ。
お兄ちゃんは、もう少し弟を思いやって手をつないで、一緒に学校に遅れないように家を早く出ればいいのだ、答えはこれでいいのだ～」

●温かい心を育てる学び

読みながら、考えさせられ、忘れていた大切なことに温かい気持ちになりました。
正確に短い時間で計算が出来るという事を良しとし、それで勝ちとする、そういう学び方があります。
間違いではありませんし、私の心の中にもある方向性です。

その一方で、「お兄ちゃんは、弟をちょっと思いやって少し早く家を出ればいいのだ」という、その心のあり方に私たちはどこかで深くうなずかされます。
そういう心も育てていくことができるのではないかと思います。

同じひとりの人間の中にも、まったく違う心の方向性がありますよと教え、皆と一緒に、お互いを認め尊重し合いながら生きていくことを教えてくださるのが心を育てることでしょう。
仏壇に手を合わせ、本堂に説法を聴聞し、お墓にお参りになるところに、私も多くの方がたの思いやりと関わりの中に生かされていたと改めて、仏さまのまなざしを大切にしたいことです。

註:「バカボン」とは仏教用語でお釈さまの敬称であり、サンスクリット語の「Bhagavan（バガヴァーン）」「Bhagavad（ヴァガバッド）」、覚れる者という意味でBuddha（仏陀、ブッダ）と同義語です。漢字では「婆伽梵」「薄伽梵」と書きます。『天才バカボン』の中では、触れられていませんが、ふと、思いをめぐらせました。

合掌
万行寺第十八世住職　釋靜芳（本多 靜芳）

※ご縁のあったあなた！　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか？　お待ちしてます（会費はいずれも資料･茶菓代として千円です）。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。